

緑ネットワーク通信

NO.4

緑のネットワーク・まつど

代表：田中利勝

連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977

年会費：1000円

「千駄堀・五本木地区の並木が なくなりました」

千駄堀を守る会 東 闊

千駄堀の湧水は昔からその質・量ともすぐれたものとして知られていました。昨今ずいぶん少なくなるとはいえ、万貫田の斜面から湧水は絶えることなく流れています。その湧水を支えているのは千駄堀の東側の五本木や金ヶ作・常盤平・五香、そして柏の酒井根・逆井の樹林帯です。

五本木地区の栗の林が千葉西病院の駐車場として伐採され、さらに市道沿いの檜や杉の古木の並木が伐採されました。その理由は、成長した木が市道側にはみ出している為の管理上の問題とのこと。

かつて千駄堀を公園化する時に、千駄堀の湧水を守るためには周囲の樹林帯を残すことは市の方針でもあるはずだし、今まで何一つ問題のなかった個所に管理上の問題というのは理解しがたい。個々には事情があるにせよ、それらを総合的に勘案していくのが行政であり、そうした意味での管理責任を問われるべきであると思います。

周囲の人々に愛され、千葉西病院の患者さんの癒しともなっている古木の並木を残すために、市と地主さんと千葉西病院に五本木地区の「千駄堀の緑を愛する住民の会」の人たちとともに、交渉を始めて一週間の後に突然すべての木が切られてしまいました。この間の市や地主の対応には怒りが込み上げてきます。しかし、市や千葉西病院との折衝の中で、我々も並木の自主管理を目指した「千駄堀の緑を愛する住民の会」の方々も学びえたものもありました。「暮らしが自然と調和する緑のふるさと 松戸 —緑花清流でつづる人とまち、自然の物語（松戸市緑の基本計画）」と標榜する松戸市の欺瞞性もまた、あきらかにしていかなければなりません。

第4回観察学習会「残したい松戸の樹林」

保田 行弘

1月11日(日)9時30分東松戸駅に集合。風の強い寒い朝だったが参加者は50名を超え驚いた。

さっそくJR武蔵野線沿いに15分程歩き「サイカチの森」へ入る。この森は田中代表の知人が発見し命名されたとのこと。いいネーミングだ。

代表の先導のもと森の中を1時間程観察。サワラ、タブノキ、シラカシ、エノキ等の大木も多く、会長の調査では木の種類は85種に及ぶ。途中15mの頭上にカラスとタカの巣を発見。この森には殆ど人が入っていない証拠かと推測。

名前のいわれのサイカチの木でしばし観察。幹に数多くの大きなトゲがあり、トゲの形がカブトムシの角にそっくり。昔の人は分かり易い名前をつけるものだと感心。コブシ、イヌザクラ等の花の木も多く、もう一度早春に訪れたいと思わせる森であった。

昼食後は参加者が5~6班に分かれての地図の着色。簡単な作業からたくさんのが見えてくるのが面白い。地図は市役所で安く入手できるとのこと。次は自分の住まいの周りの地図でやってみるか。

会が終わって帰り道、「サイカチの森」を思い出し、あの森も松戸市の緑の面積2%の貴重な一部、是非残したいと思いはコブシのようにふくらむ。



「私たち」を育んでくれる森を楽しみたい、そして仲間を増やしたい

菅 博嗣

五本木の伐採がなぜもっと多くの市民の話題にならないのだろうか？人の所有財産に口を挟まないというエチケットなのか。

牛井の話題では大騒ぎになったが、これは「私」のお腹がグーと鳴るからなのか？森の消失はおいしい空気の危機なのに…。

財産でも権利でも「わたし」の世界が力を持つ時代である。そんな中で「私たち」という世界が貧しくなってはいないだろうか。

「私たち」は空気、水、みどりといった環境を共有している、喜び、楽しみ、幸せも「私たち」で共有されると何倍にもうれしくなる。

五本木の伐採に「私たち」の世界を見出した人は心を痛めた。あまりにも早くことが進んだために話を知らなかった人、あるいはその意味する事や木々の伐採と「わたし」との関係をイメージできなかった人には、「私たち」の世界は見えてこなかった。

では五本木に集まったのはどういった人達であったのか？金ヶ作の森で出会った人、松戸緑のネットワークの集まりで出会った人、どうも同じ人に会うことが多い。

関さんの森の区画整理問題の時には生け花の花材を携えた人がいた、お茶を運んで下さる人もいた、森の奥の方では樹林管理をしている音も聞こえてきた。

- 1) いろんな人が集まって現場でのやり取りに耳を傾けた。1本の木のありようが「私たち」の事として受け止められていた。
- 2) 関さんの森に踏み入った。手作りの階段がある。木製遊具がある。刈り払われた竹の林、看板、誘導ロープや柵、いろんな人の関わりが関さんの森にはあった。

関さんの森は「私たち」を育てている。

静かな緑は魅力的である。水をたたえる谷

は、生き物のオアシスだ。見上げる斜面に生える木々は、空に向かってより一層尊い存在に見える。

森は、「わたし」を「私たち」の世界へ導いてくれる不思議な力を持っている様に感じる。森に一人たたずむと、何となく不安にもなる。寂しい気持ちにもなれる。なんと言ったら良いのか判らないのだけれどうれしい気持ちにもなる。素直な気分になることのできる森の力はすばらしい。その時々気まぐれな「わたし」を受けとめてくれる。いろんな人がそれぞれの気持ちを携えて森を訪ねると、森を介してそれらが重なって合わさって「私たち」が生まれる。

楽しく美しい森づくりをしましょう。さりげない腰掛けを置いてみませんか。鎌と鋸を置いて、今日は絵を描いてみませんか。お茶を頂いてみませんか。昼寝もしましょう。アコースティックギターを爪弾いてみますか。俳句を読んだり…。関さんの森は、そんな想いをきっと受けとめてくれる。

みどり好きだけでは、森は守れない時代です。瞑想好き、季節変化好き、自然の音好き、森と「わたし」を語りあうことのできる様々な仲間の理解が欲しい。それらが重なるときに裾野の広い「私たち」の世界が生まれる。そして、緑好きだけでは気づくことのできなかった、違う側面での森の豊かさを実感できる。みどりの生活(グリーンライフ)を創造しましょう。グリーンライフの多様性と魅力をもっともっと楽しみたい。

多くの方が森と共存していくことのできる楽しい体験を共有するなかでこそ、木々の存在が「私たち」のことと成っていくのだと思います。

パートナーシップで実施した
「里やまボランティア入門講座」

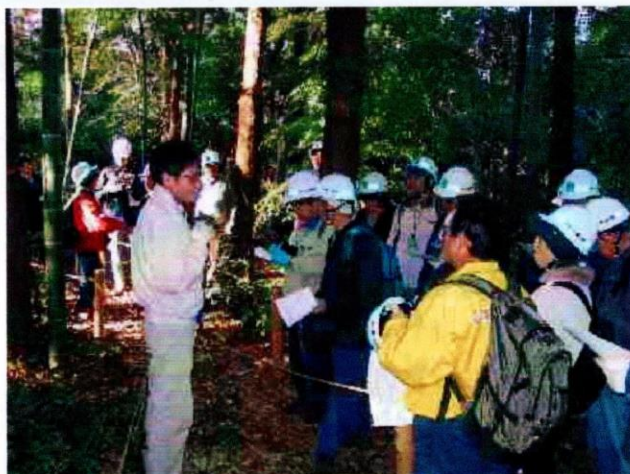
報告 渋谷孝子

1998年に「松戸市緑の基本計画」が策定され、これに基づいて「緑推進委員会」が設置されました。第1期の委員会には市民委員として関美智子さんも参加されていますが、市の緑についてさまざまな提言がなされました。

第2期には市民委員として高橋盛男さんと私が参加しています。第1期の提言を受けて「早急に取り組むべき課題」をできるところから進めていこうと、本委員会とは別に樹林地部会として動いています。

「みどりと花の課」とのパートナーシップで、昨年11月から今年の1月にかけて、5回連続の「里やまボランティア入門講座」を緑推進委員会とみどりと花の課の共催で実施しました。

講座初日には環境教育アドバイザーの高野史郎さんに、松戸の里やま、地形、雑木林、保護・管理のお話をうかがい、実際の例として21世紀の森の公園の中を自然観察しました。2日目は千葉大園芸学部の柳井先生に、都市の樹林の役割などを教わり、地形図の樹林地部分を着色したり、実際に矢切の斜面林を観察したりしました。3日目では関さんの森、4日目で金が作の森での実習も行ない、地権者のご苦労や保全活動の難しさのお話を聞いたり、作業の充実感や楽しさを体験したりしました。最終回では樹林地を残したいと考えている地権者の会「ふるさと森の会」のみなさんとの交流もあり、14名の修了生



が誕生しました。さっそくこの場で具体的な行動へのきっかけも生まれたようです。

市内には「できることなら樹林地を樹林地のまま残したい」と考えている地権者がいること、「樹林地が残ることを心から望んでいて、保全のために汗を流してもいい」と思っている市民がいることが、お互いに見えてきました。また、地権者のご苦労や行政の限界などについて、市民には全く理解されていない現状も浮かび上がりました。

この講座の目的は

- ・松戸市における樹林地の現況、樹林地の都市生活における役割と重要性を、緑に関心を持つ市民に知ってもらうこと。
- ・個々の樹林地が持つ特性に合わせた保全が必要であることから、基本的な樹林地保全の方向性を共有すること。
- ・保全活動の実践的な作業、楽しみを体験してもらうこと。
- ・受講により樹林地保全への意識を高め、実際の活動に取り組むきっかけをつくること。

の4点でしたが、ほぼその目的は達成されたと思います。

先日行なわれた修了生の交流会では、「これからもなにかしら活動していきたい。」「同期生と一緒に活動して行けたらいいね。」などの声上がり、次回の集まりで具体的な動きにつながっていきそうな気配です。元気な修了生に、大きな期待をしています。



「里やまボランティア入門講座」の貴重な体験

高橋盛男

受講者には、少し思惑違いの講座になったかもしれない。「里やまボランティア入門講座」という名称から、ふつうなら山林の手入れ法、下草刈りや枝払いの仕方や道具の使い方など、実務のうえでの技術や知識を学ぶ内容を想像するだろう。

14名の受講者の大方がそう思っていたようだし、実はこれを企画した緑推進委員会樹林地部会のメンバーも、最初はそんな講座をイメージしていた。講座ではもちろん、樹林地の手入れ体験なども盛り込んだのだが、実際の内容は技術的な講習にはならなかった。

それというも「松戸の場合の樹林手入れは、田舎の山林の手入れとはかなり中身が違う」という、渋谷さんの意見があったからだ。

「作業そのものは、大した道具など必要としないし、誰にでもできる程度のものでいい。むしろ、都市にある樹林の現状や、保全の意味を知ってもらうほうが重要だ」というのである。「なるほどなあ」と樹林地部会の皆、目からはがれ落ちた鱗を並べて見せ合ったものだ。

というわけで、先に渋谷さんが報告して下さったような講座になったのだが、長年、都市の森をフィールドに活動して来た人の見識は、さすがに優れたものだと感服した。

初日の講座で高野史郎さんが、われわれの企図を汲み、樹林や生き物との共生ばかりではなく、

「街と樹林の危うい関係」について、とてもわかりやすくお話をくださったのがよかった。続く柳井重人さんの講義「都市の樹林の役割」も、講義というより「身近な緑のとらえ方」を体験的に知るための実習といえる内容で、この講座の方向性や考え方をかなり明確に示せたと思う。

今回の講座では4回目まで、市川市の職員が参加していた。「市川でもこのような講座をやってみたいので参考に」ということだった。一緒に汗を流し、焚き火を囲んだが、講座の内容もさることながら、市民委員と行政が協力してこのような講座を開講したことを高く評価していた。

一方、松戸市の職員はといえば、これも「貴重な体験をした」と好評だった。松戸市では、市民と行政のパートナーシップをうたっているが、実際のところ、職員にとっても市民にとってもその実態が見えておらず、経験も薄い。その意味では、双方ともに貴重な体験になったと思う。

受講者たちは、この講座の成果を生かしたいと独自に動きはじめた。どのような活動となって現れてくるのが楽しみだ。

今後もこのような講座を開催させていきたいという意向が、緑推進委員会にもみどりと花の課にもある。さて、どう継続していくかが課題なのだが、私案として緑ネットがこれを引き継ぎ、実施してはどうかと思う。いかがなものだろう。

今後の予定

3月18日(木) 定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤木神社内の幸谷公民館にて。

情報交換、観察学習会の計画、他。 誰でもご参加ください。

4月11日(日) 観察・学習会「残したい松戸の樹林⑤」

9:30~14:00 新京成線 常盤平駅 9:30集合雨天決行、申し込み不要

参加費: 300円(会員100円) 持ち物: 弁当、のみもの、雨具など

14:00~ 会員交流会・総会(2004年度の会費1000円納入お願いします)

詳細については
お問い合わせください

緑ネットワーク通信

緑のネットワーク・まつど

代表：山田純稔

連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977

年会費：1000円

第5回観察学習会

「残したい松戸の樹林」

鈴木 護

春の観察学習会「残したい松戸の樹林⑤」が40名を超える参加で開催された。

朝9時30分、常盤平駅集合の後、一日の予定や注意点など説明を受けた後、第一の観察場所である金ヶ作の森に移動。

ここは、金ヶ作地区の樹林の中でも樹種が豊富で、持ち主である小嶋さんとしても大事にしていきたい、残したいというお気持ちもあり、「みどりのネットワークまつど」のメンバーが中心になって「金ヶ作の森を育む会」を結成。一ヶ月に一度の作業日には森の手入れや竹細工などに汗を流している。

この森の中には繁茂する竹にかくれるようにして数本のけやきの巨樹がそびえているのが印象深い。かつては柴又の帝釈天に渡っていった巨木もあったという。

隣接する「ぶどう園」をはさむようにして常盤平寄りにあるのが「金ヶ作自然公園」ここも所有者さん達の好意で維持されている貴重な緑である。



春の季節を象徴するようにイヌシデの雄花がパラパラと落ちてきていた。

祖光院の境内を観察した後、参加者達は2コースに分かれた。Aコースでは「熊野神社裏の森」と「熊野神社境内」をゆっくりと移動。樹林以外の春の野草の典型的なものが多く観察できた。Bコースでは「石川家の林」から高木小学校周辺を観察。石川家の竹林の良く手入れされた姿や境界に植えられたあと立派になった杉などが印象的だった。

両コースの終盤には千駄堀に隣接していながら昨年無残にも伐採されてしまった五本木地区の栗林や境界の樹木の跡を見学した。

午後は野外学習センターにて今日見てきた金ヶ作地区の歴史や景観の特徴、そして現在置かれている緑の厳しい現状について勉強した。春の陽がまぶしい一日でした。

五本木地区のように伐採されてしまったことを教訓に、金ヶ作地区の緑がこれ以上削られることが無いように注意していきましょう。



雨水貯めてミニダムを！

まつど雨水の会：磯村光良

「遠くのダムより近くのミニダム(雨水タンク)」と、水資源の節約と水の環境問題を提起してきました。松戸市には、雨水利用と浸透マス設置を要望し、学校・公共施設に設置され始めました。また、下水道敷設の際に埋める浄化槽を雨水タンクに転用するチラシも配布されましたが、いずれも普及は遅々として進みません。特に、4人家族一日半分の水道使用量(1.5t)と同量の雨が貯められる浄化槽は、知らずに埋めてしまう家が多いので、早急に知らせなければなりません。

2年前より市民として参加した県と関係4市による「真間川流域水循環系再生構想」が作成され、今後推進されます。現状の真間川流域は都市化による問題に対応が難しくなり、「利便性を追求した暮らしを反省し、雨を貯め、利用し、浸透することと、多自然型の川づくりを目指す」こととなります。そこで、雨水貯留と浸透、そして樹林地保全などの対策が急務となります。下水の高度処理水利用も掲げられていますが、それ以前にできる方法は多くあり、要綱から拘束性のある条例化を強く求めます。

今、事業費の倍増などで大きな問題になっているのが、八ツ場(やんば)・湯西川ダムです。

特に、八ツ場ダムについては、現地の人々が50年もの間ダム計画に振りまわされています。クマタカなど希少動物が生息する景勝地であり、酸性の水質、もろい地質、堆砂と問題続出です。千葉県民をはじめ首都圏の住民の人口減も見えているし、給水量も減少しています。また、千葉県は工業用水の回収率日本一で、農業用水の転換も検討されています。水利権が増えると、地下水を使っている地域は水道に切り替えることになり負担額も多くなります。一方、治水面での一番の問題の都市型洪水は、都市部での雨水貯留や浸透、樹林地保全で解決しなければなりません。

それらのことを考えると、ダム建設見直しと、真間川をはじめとした水循環再生を強力に推進する時期であると思います。

総会報告

去る4月11日、2004年度総会を行ないました。総会報告をごらんください。

会員交流会

7月11日(日)観察学習会終了後、天神庵にてたまには楽しくビールでも飲みましょう。

※申しこみ不要、当日わりかん

※～17:00 予定

★終了後、会員は残り、冷たいビールなど一杯やりながら交流しましょう

今後の予定 6月17日(木) 定例会 19:00～21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤城神社内の幸谷公民館にて。

みなさまのご参加をお待ちしています。

7月11日(日) 夏の観察・学習会「残したい松戸の樹林⑥」

9:30～14:00 JR北小金駅930集合

本土寺周辺～樹林地
～大谷口歴史公園～
天神庵(学習会)

雨天決行、申しこみ不要
持ち物：弁当、飲み物、雨具など
参加費：会員100円 一般300円

2004年度の会費

(1000円) まだの方は、次回参加の時にお願いします。

緑ネットワーク通信 No.6

緑のネットワーク・まつど

代表：山田純稔

連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977

年会費：1000円

第6回観察学習会

「残したい松戸の樹林⑥」

＜本土寺・大谷口歴史公園周辺＞

7月11日実施 北山繁

連日の猛暑が続く中、参加者が少ないのではと心配だったが、それでも27(うち会員12)名の参加があり一安心。北小金駅北口から本土寺参道に入り水戸藩主徳川光圀寄進の松・杉並木を期待していたが、ほとんど枯れて伐採されており、残っているのが確認されたのはたった一本だった。今はケヤキの並木に変わっていたが、結構な大木になっており見応えがあった。聞くところによるとこの並木の参道を松戸市が大枚5億円で買い上げ管理しているとのこと。松戸市もその気になれば緑を守るため、ずいぶん思い切ったことをするものだと感心した。今後も数少ない松戸の樹林地を残す為積極的に投資することを期待したい。



今回の北小金周辺地域は縄文から江戸時代頃までのそれぞれの時代に歴史の舞台となった遺跡が数多く見られる所だ。又樹林地も多く残されていた地域でもあった。その為自然解説だけでなく、歴史的な名所旧跡の解説を入れたのはよかった。また、樹林地がどのくらい残っているか参加者の目で確かめてもらう為、過去に調査した樹林地マップに、マークをして現場に行って実際に現況を見てもらった。

本土寺から大谷口城址公園へ樹林地を求めて歩いたが、予想以上にこの地域は宅地開発が急速に進んでおり、樹林地がなくなっていることが分かった。唯一の救いは大谷口城址公園、天神山、馬屋敷の樹林地が残されていたことだ。ここは地元の資産家が市に寄付をしたので残ったものだ。午後からの地図の樹林地色塗り作業ではあらためて樹林地が大幅に減少していることが分かり、松戸市のみどりは風前の灯火状態であることが確認された。

今後の予定 8月19日(木)、9月16日(木) 定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤城神社内の幸谷公民館にて。

みなさまのご参加をお待ちしています。

10月10日(日) 秋の観察・学習会「残したい松戸の樹林⑦」

森がはぐくむ湧水を訪ねます。

JR北松戸駅9:30集合 雨天決行、申し込み不要

持ち物：弁当、飲み物、雨具など

参加費：会員100円 一般300円

2004年度の会費
(1000円)まだの方は、次回参加の時にお願いします。

北松戸～これからコース決めます～上本郷

明日の松戸に森を残すために何ができるか？ (議会質問から見えてきたこと・その1)

武笠 紀子

松戸市の樹林地の実態については、平成7年の調査が最後で、それ以降行なわれていない。しかし、調査実施からの十年で、多くの樹林地が失われてきたことは誰の目にも明らかである。

平成7年の調査では、公有林は、全体の19.9%の84.15ha。しかしその実態は、私たちがイメージする森や林とは限らず、学校を始めとする公共施設の樹木植栽部分や、公園の樹木部分、道路の街路樹部分も樹林地面積に含めての数値であり、まとまった公有林は少ない。その後買い取ったのは、本土寺参道の樹木部分と根木内歴史公園の樹木部分。その他に寄付された樹林があわせて1haといわれているが、ほとんど増えていない。

樹林地の80%を占める私有林については、買取りの義務を嫌って、保全地区・風致地区は、今もって松戸に1箇所もない。代わりに、緑の条例により買取り義務のない、保全樹林・特別保全樹林を指定している。少なくともこれら59.9haの指定された樹林地が開発するための届出が必要であるが、その他の多くの私有林は、市への届出もなく伐採されていく。

宅地化の進む松戸市では、樹林地に対する近隣からの苦情も多く、相続税・固定資産税に対する優遇措置もなく、樹林地の持ち主の置かれている立場は、厳しい。残すためには、行政の援助、市民の支援がなくてはならない。

森や林は誰がもっていようとも、地域の生活環境・自然環境を良好に保つ為の財産であるという認識を市民が共有すること。そして、市に積極的に保全を求めて、私たちの老後に、子どもたちに森や林を残していきたい。

「みどりの松戸づくりに向けて」 —緑推進委員会の提言書ができました— 高橋 盛男

第2期緑推進委員会の提言書「みどりの松戸づくりに向けて—パートナーシップでみどりを守り育む第2期活動報告と提言—」がまとまり、去る6月28日に松戸市長に提出されました。行政関係者だけではなく、広く市民にも委員会活動と提言内容を知ってほしいと担当課に要請し、増刷してもらいましたので、緑のネットワーク・まつど会員各位にもこの提言書をお届けいたします。

樹林地保全にかかわる主だった部分では、下記の内容が盛り込まれています。これらを含め、本提言書に対する意見をいただければと思います。

- * 樹林地部会が試行した「里やまボランティア入門講座」の成果 (p 7、15)
- * 五本木外地の並木伐採問題について(p 9、16)
- * 樹林地の保全にかかわる取り組みとしての「みどり資源の再発見」「環境資源マップづくり」「みどりの地区計画づくり」など(p 10、14～)

また、第2期緑推進委員会では、市より「みどりの市民憲章(案)」の諮問がありました。委員会では、憲章の意図を言葉だけに終わらせてはならないと、これに行動計画を重ね合わせることを提案し、毎年市民から日常的に誰にでも取り組める行動計画を募集し、実施していくことを決めました。ただいま、担当のみどりと花の課では、この行動計画を募集しております。(広報まつど7月15日号掲載) 提言書にある例(5ページ)なども参考に、ご応募いただければと思います。8月末日締切です。

応募先：みどりと花の課

FAX 047-368-9595

E-mail:mcmidori@city.matsudo.chiba.jp

(応募に際しては、住所、氏名、連絡先をご明記ください)

緑ネットワーク通信 No.7

緑のネットワーク・まつど

代表：山田純稔

連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977

年会費：1000円

第7回観察学習会

「残したい松戸の樹林⑦」

～北松戸・上本郷の樹林と湧水を訪ねて～

島田 智子

前日、大型台風22号が千葉県内を直撃し、10月10日(日)観察会当日は台風一過の秋晴れを期待していたのですが、あいにくどんよりとした曇り空。それでも27名が元気に北松戸駅に集合。北松戸～上本郷まで、樹林がはぐくむ湧水を訪ねて歩きました。

駅を出ると、こんもりとおい繁った緑が視界に広がってきます。これから向かう龍善寺の斜面林です。一面に広がる豊かな緑は私たちに深い安らぎを与えてくれますね。斜面林の景観的価値としての素晴らしさを楽しみ実感しました。境内では赤く色づいたゴンズイの実、マテバシイやクヌギ、コナラのどんぐりが秋を感じさせてくれます。

二ツ井戸跡の碑を経て明治神社へ入ると、大イチョウが迎えてくれます。境内には3本のイチョウがあり、一番大きな木は樹齢200年以上、高さ23m、幹周り4mもあるそうです。その凜とした佇まいと年輪の重みには畏敬の念を覚えます。シイの実、ムクノキ、ケヤキ、エノキ等も秋の顔を覗かせています。

個人のお宅に植えられているカヤの木や墓地にそびえ立つボダイジュなどの見事な大木を観察し



て、本覚寺へ。ここは標高30mの高台に位置し、下総台地のへりに当たる地形だそうです。境内からの見晴らしも抜群で、お天気が良ければ富士山がよく見えるとのこと。

本福寺脇の階段を降りたところにあるカンスケ井戸。住宅地の一角に残っている貴重な湧水池です。斜面林をのんびり歩いていくと、住宅地の路地奥にある宮の下湧水にたどりつきます。町中にあるとは思えないくらいに静かな佇まいを呈しています。流れている水も澄んでいて、ひんやりと冷たい。豊かな自然の息吹きは心を癒してくれますね。湧水を支えている斜面林とともに、ずっと残ってくれることを切に願うばかりです。雨水利用と地下浸透のお話、そして湧水のタイプの説明を聞いた後、最後の観察場所である風早神社へ向かいます。

風早神社の境内でイチョウやマテバシイ、モチノキなどの見事な巨木を観察して、午前中の観察会は無事終了しました。

午後は、過去に調査した地図を基にして午前中歩いた樹林地の着色をしながら、松戸の樹木の現状や緑の大切さなどをみんなで考えました。

減り続ける一方の松戸の樹林ですが、緑豊かで住みやすい自然環境を少しでも多く次の世代に受け渡していけるように、思いを同じくするネットワークの輪が大きく広がってくれることを願ってやみません。

※ 会員である「松戸雨水の会」の磯村さんから、皆様に呼びかけご協力いただいた監査請求の報告を頂きました。

ハッ場ダム建設事業に対する監査請求の棄却に思う

まつど雨水の会 磯村光良

9月10日、千葉県民 1,337 名による監査請求を提出しましたが、11月9日決定が出され、請求人各自にその内容が送られてきました。治水に関しては、河川法に基づき負担金の支出は知事の裁量権が認められないので却下。利水については、県の水需要計画の政策判断に合理性が認められるので棄却となりました。

治水について

県の主張としては、ハッ場ダムの流量調節を示し、首都圏の洪水被害が軽減されるとしています。しかし、国の治水計画の 22000 万 m^3 /秒の洪水流量予測は過剰であり、利根川上流のダムによる流量調節分の 6000 万 m^3 /秒は、実際にはハッ場ダムができて無理という数字も出されています。今後訴訟の中で明らかにされる点が多々出てくると思います。又、ダム放流の二次災害が言われる中で、今年の台風による洪水被害にもダム放流の影響が出ていたと伝わっていますし、都市型洪水が続く現在、利根川上流の流量調節の為のダムはこれ以上必要なのでしょうか。知事の裁量権がないということで却下するのではなく、ダム建設に県民も負担しているのですから、監査すべきでしょう。

利水について

県は、最大給水量は、ここ 10 年間横ばいであり、H14 年度保有水源が実績より約 45 万 m^3 /日多いことは認めました。(請求人は 70 万 m^3 /日多いとする)しかし、企業との契約水量(108.6 万 m^3 /日)が実績(86 万 m^3 /日)より多いのでその推量を確保する必要が有ると言います。

千葉県の工業用水のリサイクル率は全国 1 位の 90.8%です。又、松戸市内のマブチモーターは地下水使用をやめて洪水対策も兼ねて雨水 1000t を貯めて製作やトイレに使用しました。幕張新都心やディズニールランドなども雑用水利用として雨水や再生処理水を

使っています。このような方法で、今後企業との契約数量を減らすことは可能です。

水道用水については、普及率が H14 年度 93%で、全国平均 96.8%より低いから今後水需要は増えると予測しています。人口も人口問題研究所の推計を上回っているから増えるといいますが、2015 年にピークを迎えることには言及しません。

今回の監査請求の署名を集める中で、現在、飲料として地下水利用している地域では、強制的に水道水に変えられることを望んでいないことがよくわかりました。全国平均の数値を上げることで、その地域にあった地下水利用を考えるべきです。

又、渇水対策としては、県民の啓発により節水意識が浸透しているのでこれ以上は困難としています。渇水対策こそ雨水を貯留し、利用することで解決するのであって、雨水利用の啓発も実行も、県内ではまだまだ進んでいるとは言えません。個人住宅、ビルなど雨水のトイレ利用をすれば、ダム完成に要する経費、時間で、洪水対策・渇水対策は十分に果たせます。

その他、森林の涵養機能についても、蒸発作用によって河川流量が減少するとしていますが、実際の蒸発作用は少量で、雨が降らなくても、河川に水が流れるのは森林からの地下水流出であって、やはり森林の保水能力はかなり大きいとされています。

いくつかの問題点を指摘しましたが、治水、利水について、県の見解は過剰な洪水の対応と水使用量を増やすためのダム建設に思えました。それに対してこの監査結果は、国や県の意見をそのまま解釈した判断であり、広い見地に立って、特に自然環境面から私たちの暮らし方を見つめ直す姿勢が欠けています。訴訟によって一つ一つ検証していくこととなりますが、この地域で多くの人たちと意見交換する機会を持ちたいと思います。

会の紹介

江戸川の自然環境を考える会

身近な川・江戸川をもっと知ってほしい、身近な自然環境をもっと良くしたい、そのためには、まず自分の足で歩き、自分の目で確かめることから始めようと94年2月に「江戸川の自然環境を考える会」はスタート。堅苦しい会の名前ですが、実体は毎月1回（第4日曜日）、江戸川流域を手始めに、徐々に行動半径を広げ東葛から印西、印旛村などあちこちをのんびりと歩きながら、季節の植物、野鳥など観察するというもの。その活動の中から見えて来るもの、残したい自然、望ましい自然環境をどう保全していくかなど、現場で考えようとしています。

さらに、江戸川流域で現在抱える諸問題を知り、川のあるべき姿を考えるためのシンポジウムも毎年7月に開催。川や自然に造詣の深い講師の講演、さらに江戸川河川事務所や松戸市など行政を交えたパネルディスカッションで時にテーマから脱線、暴走しながら、熱く熱く語りあったりしています。

どなたでも、自由にご参加いただけますので、興味のある方はぜひ、江戸川の自然環境を考える会：047-371-5495（田中／夜間のみ）までお問い合わせ下さい。

緑ネットのこれから

「松戸市の樹林地を守りたい」という思いを持つ人が集まって『緑ネット』が発足。2000年3月から活動がはじまりました。はじめは情報交換や勉強会を中心に、少人数でおこなっていましたが。その後2003年からは『団体』としての体裁をととのえ、観察学習会の開催も公募して、現在に至っています。

市内に残る樹林地をめぐる観察学習会は、矢切・千駄堀・紙敷・金ヶ作・上本郷など、今までに7回実施しました。地図を片手に実際に歩いて見て、市内の樹林地が危機的な状況であることを、あらためて痛感しました。このままでは、松戸に残る樹林地は千駄堀（21世紀の森と広場）と関さんの森だけになってしまう……。そうならないためにも、私たちの活動の成果が求められています。

松戸に残る樹林地を大切に思う人、そんな人たちとのネットワークをさらに広げ、そろそろ「学ぶ」から「行動する」へ、「模索」から「実践」へと、活動をつなげていきたいところです。皆さんの知恵をお貸しください。

山田純稔（代表）

今後の予定

12月16日(木) 定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤城神社内の幸谷公民館にて。4月以降の活動（勉強会など）の相談、次回観察会の打ち合わせ、情報交換など。みなさまのご参加をお待ちしています。

1月10日(日) 冬の観察・学習会「残したい松戸の樹林⑧」

寒風台樹林～千駄堀湧水～長屋門

～21世紀の森と広場アウトドアセンター管理棟にて学習会「千駄堀の今むかし」

新京成稔台駅9:30集合 雨天決行、申しこみ不要

持ち物：弁当、飲み物、雨具など

参加費：会員100円 一般300円

2月17日(木)定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤城神社内の幸谷公民館にて。